

## 復活の兆しみせる留学 目的も多様化

中学生・高校生は夏になると海外留学が計画の選択肢に入る。コロナ禍の中で落ち込んでいた留学も復活の兆しが顕著だ。

学生の海外留学を支援しようと官民が連携して取り組む留学支援事業「トビタテ！留学JAPAN」(以下、トビタテ！)では今年度、全国919校2238人の高校生から奨学金の応募があり、443校708人が合格した。「トビタテ！」の奨学金プログラムは高校生と大学生が対象で、自ら留学計画を作成し、書類と面接で審査を行うものだ。高校生コースの応募者数は2019年度に3018人に達し過去最多を記録したが、21年度に1419人まで落ち込んでいた。今年度は19年度の75%にまで回復したことになる。広報の西川朋子さんは「コロナ禍で海外渡航を諦めていた学生が、再び応募をし始めた」とみる。

留学先は北米・ヨーロッパ・オセアニア地域が8割を占めるが、アジアやアフリカ地域へ留学を計画する人もいる。留学計画も単なる語学留

学ではなく、貧困地域でのボランティアやスポーツ留学、着物のリメイクや化石発掘に至るまで様々だ。「現地でしかできない経験を重視する学生が目立つ。今まで以上に探究活動が重視されているのを感じる」と言う。

全体的な留学の動向を見ても、復活の兆しは顕著だ。留学支援大手の「留学ジャーナル」によると、今夏に向けた中学生・高校生の短期プログラムへの問い合わせは春先から殺到し、キャンセル待ちのプログラムが相次いだという。マーケティング部広報担当の石沢京子さんは「学ぶ先の語学学校などは受け入れ可能でも、宿泊先が見つからないケースも多い。留学を考える学生は早めに相談に来てほしい」と話す。

需要に対し受け入れが追いつかないという事情のほかにも、留学がしにくくなっている理由がある。一つが円安の影響だ。

例えばさいたま市では今年、姉妹都市のニュ



東京の文部科学省で6月に開かれた、「トビタテ！留学JAPAN」に合格した高校生の事前研修会。全国から集まった高校生が自らの留学計画を紹介し合った

ージーランド・ハミルトン市に中学生の派遣を再開する。渡航費などの費用は学生と市が双方で負担してきたが、今年は学生側の負担額が41万円となり、19年の派遣時から15万円ほど増加。市の負担額も2万5千円増加の16万円となった。

## トピック コロナ後の大学オープンキャンパス 多数の大学が来場型を復活

コロナ禍で2020年、21年、22年と多くの大学がオンライン形式または来場者を制限して実施してきたオープンキャンパス。コロナが感染症法上の5類に引き下げられたことをきっかけに、23年は来場型のみで開催する大学が急増している。

大手予備校・河合塾によると、5月時点で把握できた関東甲信越地区の国公立259大学のうち8割が、今年は来場型のみで実施。残りの大学も、ほとんどが来場型にオンラインを併用する形式になるという。前年までは来場型といってもキャンパス見学や受験相談会に絞るなどして縮小していた規模も、模擬講義や体験プログラムの実施に踏み切るなどコロナ前に戻りつつあるという。

6月、千葉県松戸市にある日本大松戸歯学部では、コロナの感染拡大中は控えていた歯の模型を用いた虫歯の治療体験やキャンパス見学など、コロナ前と変わらないオープンキャンパスを来場者たちが楽しんだ。同学部の広報担当者は「実際に来校することで、ガイドブックやホームページでは知ることのできな



歯の模型を使って虫歯の治療体験をするオープンキャンパスの来場者たち=6月11日、千葉県松戸市の日本大松戸歯学部

い学部の雰囲気を感じ取ってほしい」と話す。

### 「メタバース」も広がり

一方で、3年間の流れを続けてオンラインのみで実施する大学もある。

東京大は20年から引き続き今年もオンラインのみで開催する。コロナの感染対策で8月に大学院入試の予備日を設置するなど、スケジュールの都合も関係している。

目玉は、VR(仮想現実)のメタバース空間「バーチャル東大」。メタバースなどを作る学生団体UT-virtualが制作した。赤門や安田講堂などキャンパス内の名所がコンピュータグラフィックス(CG)で忠実に再現され、自分のアバターを操作することで散策できる。工学部の研究内容の紹介や、模擬講義や工作教室などの動画も公開している。昨年は日付を指定したオンライン開催で、2日間で約1万人が参加した。今年も前年同様、1万人程度の参加者が期待されるという。

一方で来場型の開催を望む声も多く、学内や研究室などを訪問する個別のプログラムは別の時期に実施されている。今年もオンラインオープンキャンパスの参加者に対し、こうしたイベントの情報も提供する。

メタバースを使ったオープンキャンパスに取り組む大学はほかにもある。今年3月には、四国にある徳島・鳴門教育・香川・愛媛・高知の国立5大学がライブ説明会や学部紹介などをする合同メタバースオープンキャンパスを開催した。四国地区国立大学連合アドミッションセンターの井上敏憲センター長は「当初はコロナで実地開催が制限されるリスクに備えて企画したが、結果的に志望大学が決まって



メタバースの「バーチャル東大」。赤門もリアルに表現される=東京大提供

いない層が興味を持つ新しい試みになった。参加者の地域も四国外が4割と、実地開催よりも地域の広がりを感じた」と話す。

### 暑さ対策に注意

コロナをきっかけに変化したオープンキャンパスの形。今年参加する受験生は何に気をつければいいのか、河合塾の佐々木ちさとさんに聞いた。

「まずは事前申し込みが必要かどうか確認しましょう。コロナ前なら多くの大学で事前予約が不要でしたが、今年は、調査した大学の9割近くが原則、参加の申し込みを求めています。開催されるイベントごとに定員を設けている場合もあるため、各大学のホームページなどで確認したほうが良いでしょう。また、来場型に慣れていない世代が油断しがちなのが暑さ対策です。オープンキャンパスは夏に行われることが多い上、イベントによっては広いキャンパス内を歩く必要があります。オープンキャンパスの疲れが尾を引いて受験勉強に影響が出ないように、意識的に水分補給や休憩を取り入れることも大切です」

(森泉萌香)